HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	裏磐梯エコツーリズム協会からみた震災後の福島の観光
Author(s)	伊藤, 延廣
Relation	自然災害復興における観光創造 = Natural disaster recovery and Tourism creation
Citation	CATS 叢書, 9, 63-68
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61182
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS9_07itoh.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

西山徳明，西川克之，花岡拓郎，平井健文編
『自然災害復興における観光創造』
CATS 叢書第 9 号: 6 章 63-68，北海道大学観光学高等研究センター（2016）

裏磐梯エコツーリズム協会からみた震災後の福島の観光

伊藤 延廣
裏磐梯エコツーリズム協会

ただ今ご紹介いただきました，裏磐梯エコツーリズム協会の伊藤でございます。今回の橋本先生による「会津北塩原村における観光の風評被害とその克服に向けて」というご発表の前段に，我が福島県北塩原村についてご紹介したいと思います。

皆さんは福島県の位置はご存知かと思いますが，それでは北塩原村はどこにあるか？とお聞きした時に，お答えいただける方はいらっしゃいますか？

1. 福島県について

まず福島県について簡単にお話しします。福島県は岩手県に次いで，本州では第 2 位の面積を持つ県です。図 1 の右から浜通り，中通り，そして会津と，大きく 3 つの地域に分かれております。「浜通り」はその名の通り太平洋側に面していて，漁業を生業の中心とするところです。浜通りの中心地であるいわき市には，フラガールでおなじみの観光施設や，水族館，その他にもいろいろ観光施設があり，特に南部では観光もかなり盛んに取り組まれています。続いて「中通り」です。中通りには，県庁所在地の福島市，県内有数の商業地として知られる郡山があり，関東から見た入口のところにかつて白河の関がありました。福島県の真ん中で，県庁が所在し商工業が盛んな県の中枢域とお考えいただければと思います。そして最後に「会津」です。会津は福島県の 40 パーセント程度を占める非常に広い地域です。猪苗代湖や磐梯山があり，ちょうど猪苗代湖の東側に本州の中央，分水嶺に当たる中央山地が通っています。会津は中央山地の西側に当たる地域で，気候的には日本海側の豪雪地帯に入っています。会津の中心地である会津若松市は鶴ヶ城などを擁し，多くの観光客が訪れる場所です。そして，磐梯山の北側に我が北塩原村があります。このあたり一帯は通称「裏磐梯」と呼ばれていて，やはり多くの観光客を集めております。

2. 東日本大震災前後の観光客数

続いて，福島県の震災前後の入込客数を簡単にご紹介します（図 2）。2010 年，震災前の年は 5,718 万人でしたが，震災の年は 3,521 万人で，震災の影響で約 40 パーセント近い落ち込みを見せました。その後は若干ずつですが回復基調にあります。一方で北塩原村は 257 万人から，267 万人，そして 301 万人と，震災直後から若干ずつ入込客数が増えています。ただしこれは理由があります。震災直後に被災地から引き揚げておいでになった方や，「ふくしまっ子」という県の政策，これは子どもたちを外で自由に遊ばせられる

ように，多くの子どもたちを県内から会津に連れてくるものだったのですが，こうした子どもたちもカウントされているからです。そしてもう 1 つ，2012 年に放送された NHK の大河ドラマ『八重の桜』の影響もあります。

3. 北塩原村について

北塩原村は，図 3 の左側から，北山地区，真ん中の大塩地区，そして裏磐梯を含む檜原地区と 3 地区に分かれています。そして中央にやや標高は低いのですが，高曽根山と雄国山の間を結ぶ山嶺があり，それを挟んで西側は会津平野，喜多方平野と接しています。そして東側の檜原地区の中でも，裏磐梯は今から 127 年前の磐梯山の噴火で形成された高原台地で，美しい五色沼などは多くの観光客を集めています。北塩原村と言ってもお分かりいただけないかもしれませんが，五色沼はご存知の方も多いと思います。村の多くを裏磐梯地区が占めていますが，昭和 29 年の町村合併で，北山地区の「北」，大塩地区の「塩」，檜原地区の「原」と 3 つの地区から 1 つずつ取って，北塩原村と名付けたそうです。

写真で北塩原村の風景をご覧いただきたいと思います。まずは裏磐梯の五色沼の夏（写真 1），そして冬の景色です（写真 2）。我々がフィールドとしているのはこうした自然です。次にご覧いただいているのが大塩地区の棚田です（写真 3）。能登の千枚田に比べれば規模は小さいのですが，非常に穏やかな山村風景を醸し出しています。このあたりには，大塩から檜原を通って米沢へ抜ける会津米沢街道が通っていて，宿場や出城の跡が残っています。最後の写真は北山地区の民家で，民家ですが蔵造りになっています（写真 4）。かなり昔は裕福だったと聞いております。

4. 北塩原村におけるエコツーリズムの取組

ここまで北塩原村のご紹介をしてまいりましたが，続いて北塩原村で私どもがエコツーリズムに取り組んできた経過をご説明します。まず私どもがエコツーリズムという言葉を最初に耳にしたのが，「国際トレッキングフェスタ」というイベントを村が主催した時で，その際にコンサルタントとしておいでいただいた真板先生のご講演で聞きました。トレッキングフェスタはなんとか成功裏に収め，それ以降エコツーリズムについて我々も勉強していこうということになり，石森先生，真板先生，そして海津先生などのご指導をいただきながら勉強をしてまいりました。その結果，環境省からエコツーリズム推進モデル事業地区として認定されました。NPO 法人日本エコツーリズム協会が支援機関となり，4 年間さまざまな取り組みを進める中で，エコツーリズムの普及，そしてモニタリング・システムなどを勉強する機会を頂きました。そして，そのモデル事業の終了後，2007 年に我々関係者で裏磐梯エコツーリズム協会を立ち上げました。我々は，環境省の管轄である

国立公園の中で，裏磐梯地区の豊かな自然や水辺の景色を活かしたエコツアー，それら資源のモニタリングを中心に行ってまいりました。2009 年には NHK の大河ドラマ『天地人』が放送されたことから，「天地人ウォーク」というトレッキングを開催しました。その準備段階では，先ほど申し上げた会津米沢街道が『天地人』で放送されたこともあり，その資源を見直そうということで，街道沿いの歴史や里山資源の宝探しなどもしました。

こうした取り組みを進めていた 2011 年に，東日本大震災が発生します。震災では我々の村は直接的な被害はほとんどありませんでした。浜通りは原発と津波により大きな被害を受け，中通りも地震による被害がありました。しかし中央山地を隔てて西側に当たる会津地区はほとんど被害がなく，先ほど申し上げたように，被災者の受け入れや仮設住宅の建設が進みました。一方で，風評被害は会津地方においても現れてきました。それを克服するための具体的な策を，残念ながら当時の我々は持ち合わせていませんでしたが，浜通りから避難してこられた皆さんを対象にして，裏磐梯の自然を知っていただくエコツアーや懇談会を何回か催して，皆さんをお慰めするということは行ってまいりました。

こうした中で今回の，橋本先生，海津先生らによる風評被害克服に向けた研究が始まっていくことになります。非常に雑駁ですが，以上で北塩原村のご紹介は終わりたいと思います。

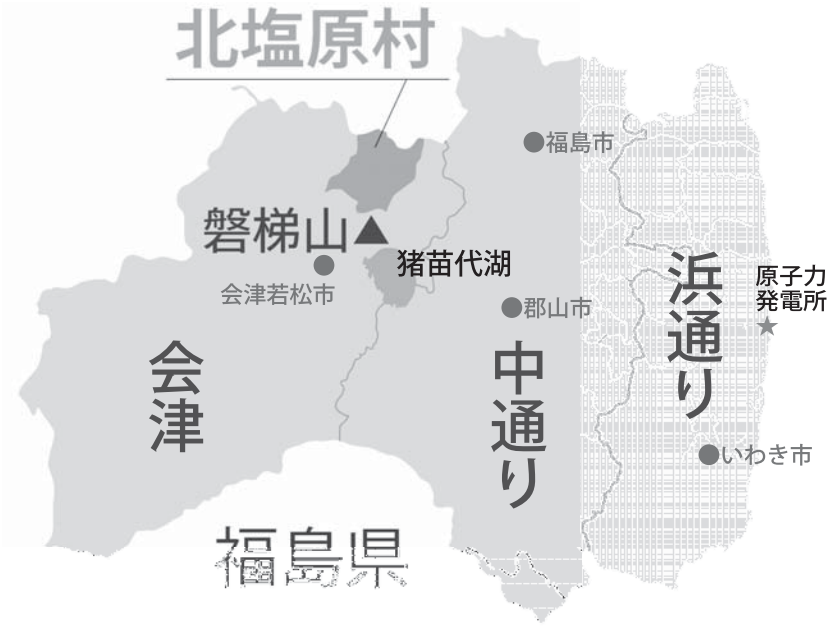

図１　福島県の地域区分（『福島県裏磐梯観光協会ホームページ
http://www.urabandai-inf.com/images/pamphlet/yado_map/stay015_2.pdf より筆者作成）

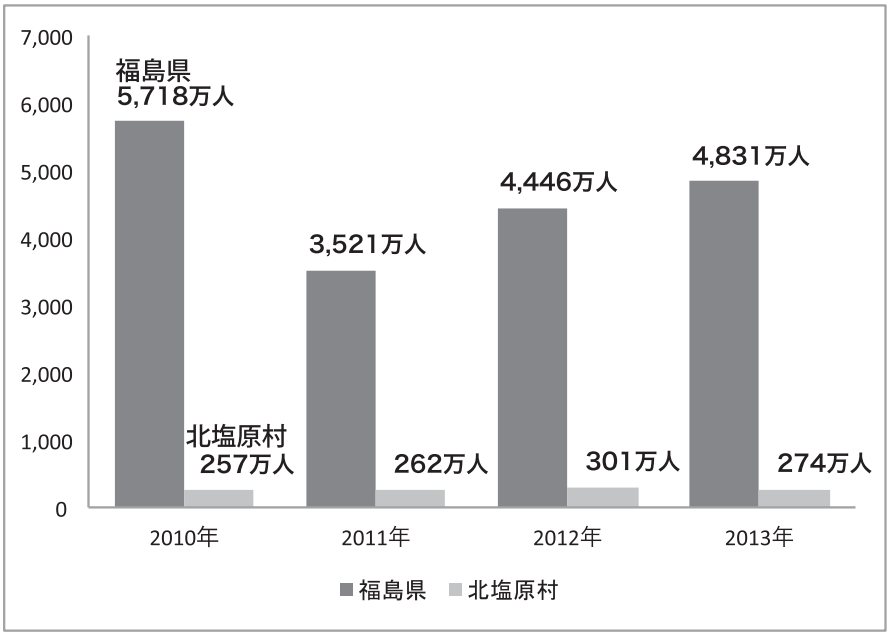

図２　福島県＆北塩原村の東日本大震災（2011.3）前後の観光入込数
（『福島県 観光客入込状況：平成 22,23,24,25 年分』福島県商工労働部／観光交流局観光交流課より筆者作成）

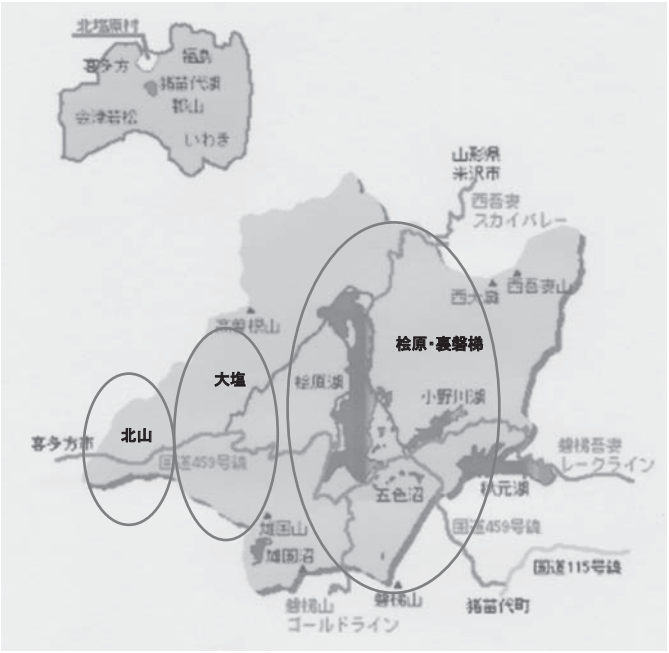

図３　北塩原村の３つの地区
（裏磐梯観光協会の昔のパンフレットに筆者が加筆作成）

写真１　夏の五色沼（裏磐梯）

写真２　冬の五色沼（裏磐梯）

写真３　棚田のある山村風景（大塩地区）

写真４　蔵造りの民家（北山地区）